

学校図書館の目的

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする。

学校教育目標

すすんでとりくむ子
おもいやりのある子
けんこうな子

児童の実態

図鑑や絵本を好む傾向があるものの本好きである。調べる学習で図書館を利用する機会が少ない。

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育て、生涯学習の基礎を培う。

ねらい

- ① 児童の読書意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身に付ける。
- ② 学び方指導を充実し、学校図書館活用の望ましい態度や技術を高める。
- ③ 多様な資料から目的に応じた情報を選び、課題解決を図り、情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ① 教育課程全体を通して、計画的な読書活動と学校図書館の活用を推進する。
- ② 学校図書館を活用した教科等の学習の充実と情報活用能力の育成を図る。
- ③ 学校図書館教育の推進を図る。

各学年の重点目標

第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物を楽しんで読もうとする。 ・学校図書館に親しんで利用できる。 	第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の本を読もうとする。 ・進んで学校図書館を利用して調べようとする。 	第五学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通して知識を増やし、心情を豊かにする。 ・目的に応じて学校図書館を適切に利用する。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物を進んで読もうとする。 ・学校図書扱い方や借り方など正しく利用できる。 	第四学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の幅を広げ、進んで読み、読書量を増やす。 ・学校図書館を利用して調べ学習に意欲的に取り組む。 	第六学年	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な本を選んで読む習慣を定着させる。 ・学び方を身に付け、課題解決能力を高める。

具体的な取組

〔各教科〕

- 学校図書館機能を活用し、課題解決学習、調べ学習、個別指導やグループ学習の場とする。
- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。
- 読書指導を行い、本に親しむ態度を養い、読書習慣を身に付ける。

〔読書科〕

- 朝読書では、様々なジャンルの読書から知識を習得するだけでなく、読書を通じた交流や作品の作成・紹介を通じて自分の考えを深める。
- 1単位時間で行う時間は、読書科ノートを活用して系統的に探求的な学習を行う。

〔総合的な学習の時間〕

- 学び方や考え方を身につける。
- 課題の解決、探究に主体的に取り組む。
- 系統的に情報活用能力を育成する。

〔家庭・地域との連携〕

- 保護者ボランティアによる年9回の読み聞かせを行う。
- 秋の読書週間には、「家族で読書チャレンジ」として、家庭での読書の推進を図る。また、大人と子どものための読み聞かせの会を全校児童・保護者対象に行う。
- 公共図書館の団体貸出や図書館見学を行うなど、連携を図る。

〔特別活動〕

- 図書委員会を中心に、自発的・自治的に図書館を運営し、読書活動推進を展開する。
- 特別活動の中で積極的に図書館を活用する。

〔道徳〕

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で、自分を深め、道徳的心情を培う。

朝読書の推進

図書環境の整備・充実

学校図書館司書との連携

公共図書館との連携